

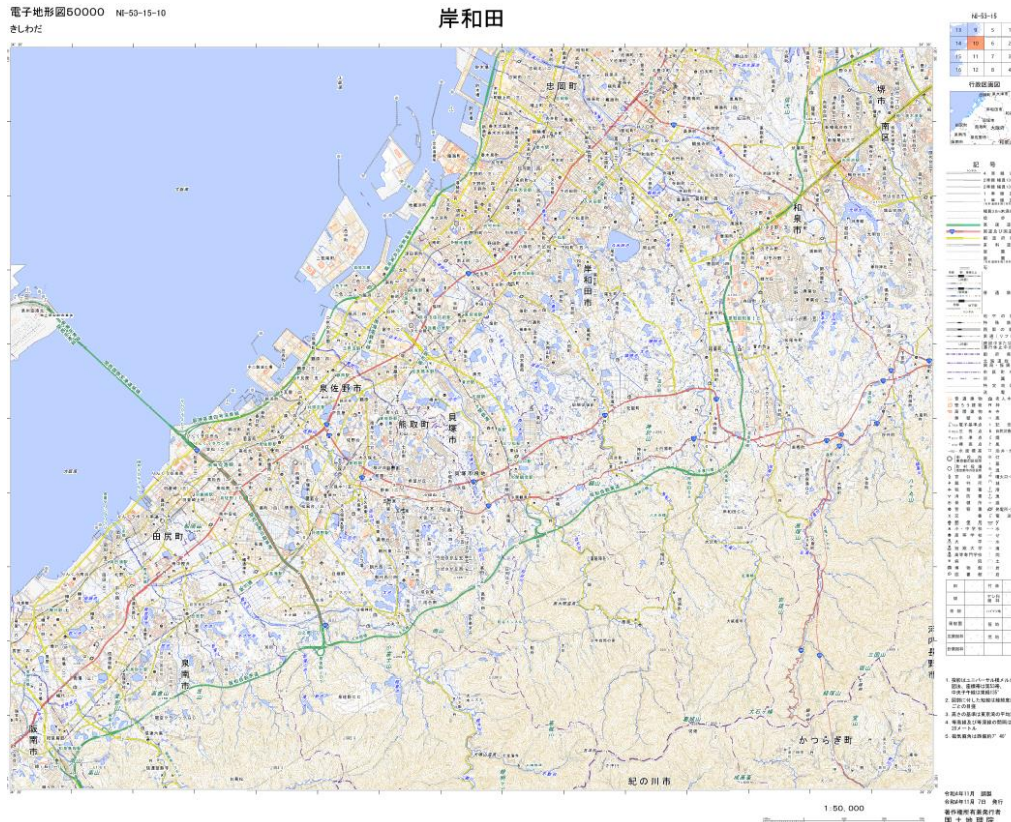
国土地理院の最近の取組について

電子地形図50000の新規提供開始

- 令和5年4月から「電子地形図50000」の提供を開始。
- 2万5千分1地形図よりも広い範囲を1枚で示し、地域を総合的・俯瞰的に捉え、幅広い利活用を想定。
- 電子国土基本図から原則、自動処理で作成することで、作業工程を効率化し、鮮度の高い情報を提供。
- 令和3年12月に試作図を公開し広く意見を募集し、試作図に対する意見を受け図式等を改良
- 今後、利用状況やニーズを踏まえ、更新停止中の5万分1地形図の取扱い等、プロダクトの整理を検討

◆電子地形図50000 「岸和田」 (令和5年4月刊行予定)

電子地形図50000 NI-50-15-10
さしわだ



■試作図からの主な変更点

- ・ 道路：1車線道路は一条道路で表現、トンネル内部に点線を追加
- ・ 建物：普通建物は25000と同じ表現とし、高層堅ろう建物を強調
- ・ 鉄道：新幹線を藍色に変更

■その他

- ・ 提供単位：5万分1地形図の図葉単位で提供
- ・ 表示機能：レイヤ付GeoPDFで提供することで
整飾・記号/注記・地物・陰影起伏図・傾斜量図の5レイヤの表示選択が可能

■今後のスケジュール

- ・ 令和5年3月（予定）：報道発表
- ・ 令和5年4月（予定）：提供開始（20面）
- ・ 以降、3ヶ月毎（4,7,10,1月）に順次提供を行う
- ・ 令和5～7年度で全国整備（1,491面）を完了予定
- ・ 地理院地図タイル画像（ZL14前後）の差替え検討
- ・ 5万分1地形図（紙地図）の取扱い等について検討

- 令和4年9月1日、「防災の日」の政府総合防災訓練等の一環として、国土交通本省との連動による「国土地理院災害対策本部会議運営訓練」を実施した
- 訓練は、同日19時10分に東京都23区を震源とする首都直下地震（最大震度7）が発生し、第1回国土地理院災害対策本部会議を2時間後に開催することを想定して実施
- 災害発生時に滞りなく災害対策本部を設置、運営できるよう、各担当が訓練を通じて各自の行動を習熟することが目標

訓練の内容

- 緊急参集者あてに電子メールで災害発生第一報及び本部会議の開催を伝達し、本部会議メンバーは10分以内に受信確認メールを返信
- 院長は国土交通省災害対策本部会議にウェブ参加（本部会議メンバーは傍聴）
- 国土地理院災害対策本部会議（本部長：国土地理院長）を開催し、被害状況、職員・家族の安否確認状況、各部等の災害対応状況・予定の報告及び本部長からの指示等、実際の会議と同様に一連の流れを実施。東京オフィスと関東地方測量部はウェブ参加



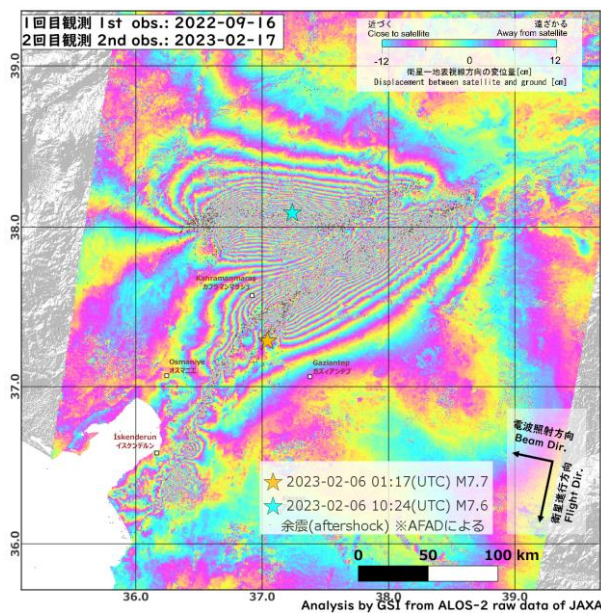
災害対策本部会議（訓練）の様子

訓練の振り返り及び効果

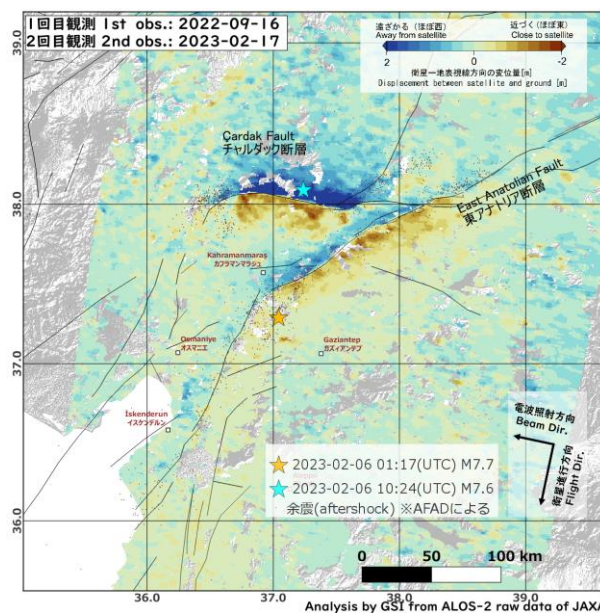
- 地震発生後の各部等における初動対応及び災害対策本部会議の一連の流れが再確認された
- 安否確認システムの有効活用（出勤の可否や被害状況等の入力）に関して提案された
- 交通規制が発生している場合の緊急撮影の実施体制（要員の派遣等）について確認された

- 2023年2月6日(UTC)にトルコ共和国でM7.7とM7.6(トルコ防災危機管理庁：AFAD)の地震が発生
- 国土地理院は、日本の地球観測衛星「だいち2号」(ALOS-2)に搭載された合成開口レーダー(PALSAR-2)のデータを使用して画像の分析を実施
- 解析結果及び得られた結果は2月9日17時にHPから公開(2月15日、2月24日更新)
https://www.gsi.go.jp/cais/topic20230206_Turkey.html

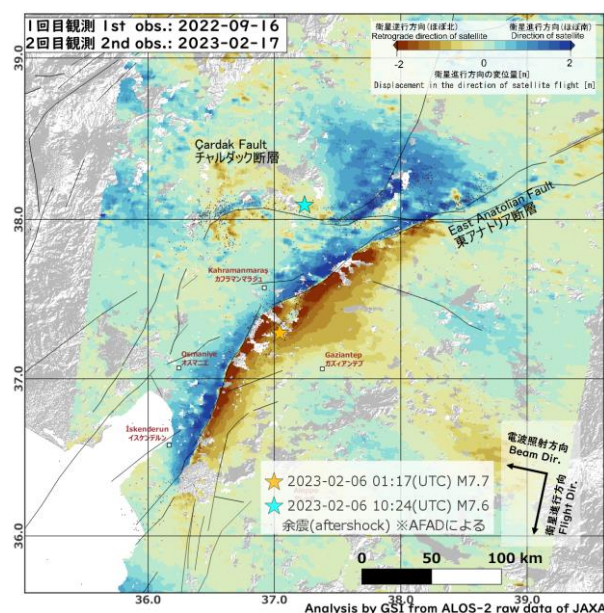
解析結果及び得られた結果



SAR干渉画像結果



ピクセルオフセット法により明らかになった地殻変動(衛星視線方向)



ピクセルオフセット法により明らかになった地殻変動(衛星進行方向)

※震央・余震分布はAFADによる、断層線はStyron et al. (2020)より。

- M7.7及びM7.6(トルコ防災危機管理庁：AFAD)の地震に伴う地殻変動が見られる。
- 東アナトリア断層(East Anatolian Fault)及びチャルダック断層(Chaldak Fault)に沿って地殻変動が見られる。地殻変動は地震のメカニズム(左横ずれ)と整合的である。
- 上記断層の近傍で非干渉領域が見られる。地震に伴って地表面が変化した可能性がある。
- 変動域では、チャルダック断層を挟んで最大で4m程度の変動、東アナトリア断層を挟んで最大で5mを超える変動が見られる。